# 2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/ 9 /30

| 団体名 | NPO法人大宮地区社会福祉協議会 | 活動タイトル | おかえりスタディー教室などの事業に関わるスタッフの資質と子どもを見守る目の向上 |
|---|---|---|---|

## 望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）

| | |
|---|---|
| ●地域の望ましい社会状況(ビジョン) | コロナ禍により社会や地域のつながりが全く断たれてしまった。以前なら地域がコミュニティとしての力を持ち、ちょっとした困りごとや心配ごとなどに住民同士で寄り添い解決できていた。特に子育ては地域の優しい見守りがあると子どもが健やかに育ち、地域が地域としての力を発揮できるようになる。そうすることにより地域が活性化し、高齢化で担い手が減りつつある地域活動の世代交代もスムーズに進み、地域のつながりを子どもたちに引き継いでもらうことができる。 |
| ●団体の社会的役割(ミッション) | 自団体は昭和38年から活動する地域の協議体で、地域に住む全ての住民に対して広く薄く福祉活動を行ってきた。コロナにより今まで大切に行われてきた福祉活動が全部中止され、再開できなくなってしまった。地域の担い手は高齢化し、再開しようにもスタッフの数や経験者も足りなくなり、なかなか思うように復活できていない。子どもたちとのつながりをきっかけに保護者やその家族、また周りのコミュニティも巻き込み、地域が再びつながり、地域が活性化し、新しい地域づくりを目指していきたい。 |
| ●団体の活動基盤 | ●望ましい人的資源：スタッフは基本的に地域住民のボランティアであり、きっかけは何かボランティア活動をしたいという気持ちで手伝ってもらうが、活動を重ねると子どもたちと仲良くなり、また、保護者からの相談も受けるようになる。大袈裟なものではないが、そんな困りごとに寄り添い、いつも見守っているというような気持ちのこもったスタッフがたくさんいることが望ましい。<br><br>●望ましい物的資源：子どもたちが居場所とするスペースは学校から近い地域の空き店舗である。昔からそこに存在し、店舗であったためそこで買い物したことがある人もたくさんいることから、地域では馴染みがある。そんな場所だからこそ子どもたちが安心して通える場所となる。 |

## ■活動風景

おかえりスタディー教室の様子

子どもたちが思い思いの学習をしている近くで支援スタッフが見守っている。

帰り道の地図

帰り道のなかで危険な所がないか、気を付けているところを保護者に子どもさんと話し合いながら記入してもらった。

## ■活動報告

小学生の居場所と学習支援の活動「おかえりスタディー教室」をはじめとする子どもたちや保護者と関わるスタッフの資質の向上をめざし、独自のテキストを作成し研修を行いました。子どもたちや保護者と接する中で、悩み事や心配事の相談にのり、解決に向けて寄り添いながらアドバイスを続けました。

助成2年目では、ボランティアまつりを2回開催し、地域住民や子どもたち、保護者、ボランティアが集まり、繋がりを広めることができました。スタッフの見守る目の向上を目的に、奈良警察署のスクールカウンセラーのよる安全な下校の仕方の講習を子どもたちと一緒に受け、さらにその後スタッフだけで具体的な子どもに係る事件の事例などを聞いて、近くに同じような危険個所がないか、どうすれば守れたかを考えました。PTAの役員さんと指導協議会の委員の方も一緒に講習を受けました。

## ■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)

スタッフの資質の向上として、相談を受けた時その相談についてスタッフそれぞれが3つ以上の解決策を提案出来るようになると目標を立て研修などを行ってきました。たくさん相談があったわけではありませんが、子どもや保護者と日々接していると色々ことが起きたり、聞こえたりします。どんな小さなことでも、それを聞いたスタッフが丁寧に受け答えし、その繰り返しが子どもたちの安心に繋がり保護者の信用になっています。スタッフ一人一人が、子どもたち一人一人とよく会話をし、子どもたちを知っている大人がたくさんいることが安全な見守りにつながると実感しています。

## ■事業を通じて得られたノウハウ

助成1年目において、私たちはNPO法人を立ち上げたばかりで、組織体制や資金面がまだ脆弱な状況でした。活動の基盤を強化するため、まず団体が抱える課題を整理しましたが、課題は山積みで、何から手をつけるべきか手探りの状態でした。

その中でも、コンプライアンスや個人情報の守秘義務に関する対応は特に重要と考え、文書化したルールを作成し、スタッフ向けの研修を実施しました。最初は大変でしたが、研修を重ねることで知識が深まり、適切な対応ができるようになりました。

今年度のコンプライアンス研修では、事前に資料を配布し、意見や感想を提出してもらったうえで、具体的なケースごとに話し合いを深める形式を取りました。その結果、個人情報の保護意識が高まり、相談対応においてもより丁寧に子どもたちや保護者の声に耳を傾ける姿勢が定着しました。
これにより、支援の質が向上し、より寄り添った対応が可能になったと実感しています。

## ■望ましい社会状況を達成するための課題

コロナ以降地域の繋がりが薄れ、今も孤立や孤独に悩む子どもたちや保護者が減っているわけではありません。誰にも言えない、どこに相談していいのかわからない、という家族がどんどん孤立を深めています。

個々の悩み事や心配を誰にでも言える人はいません。相談してみよう、話してみようかな、と思ってもらえる関係を構築するこが必要であると思います。また、活動を継続していくために、相談した時に親身になって適切なアドバイスができる人材を育成します。

## ■活動成果のアピールポイント（自由記入）

| この1年間の活動を通じて | スタッフのコミュニケーション能力の向上 | を達成しました。 |
|---|---|---|

## ■受益者の具体的な変化（自由記入）

子どもたちはどのスタッフとも仲良く会話出来るようになりました。スタッフも地域の中で知っている子どもや保護者が増え、活動に参加することが張り合いになっています。